

## 成長に応じて どう読む？どう選ぶ？

### だっこ・おすわりの頃

絵が原色で大きく描いてある絵本を選んで、優しく心を含めて読みましょう。

動物や食べ物など、身近な物が描かれていると、赤ちゃんも興味を持ってくれます。

赤ちゃんが絵本をかじったり、破いたりしても叱らないで。そうすることで、物の感触を確かめているのです。

### はいはい・つかまり立ちの頃

いろいろな物が描かれている絵本を見せましょう。「ウサギがニンジン食べている」など、絵から動きが想像できるものがお薦め。色彩豊かで、同じ言葉が繰り返されているものを選ぶとよいでしょう。

### あんよの頃

短いながらも話に展開のある絵本がよいでしょう。言葉遊びやわらべ歌、仕掛けのあるものもお薦め。「何が出てくるかな」などと話し掛けながら、ページをめくる楽しみを共有しましょう。

### おしゃべりをする頃

知っていることも増えて、お話の好みも出てきます。起承転結のあるものを選び、子どもが大好きな絵本は、何度でも読んであげましょう。集中しやすいのは、生活に身近なお話です。

字のない絵本には自分のイメージで言葉を添え、子どもとのおしゃべりを楽しみましょう！

子育てで絵本を活用するときには心掛けるべきことなどについて、読書アドバイザーの土山きみ子さんに伺いました。

—絵本を読み聞かせるときの「こつ」を教えてください。

絵本を読んであげるのは、愛情表現の一つ。難しい技術や決まりごとはありません。心を含めて読むことが何より大切です。抑揚をつけすぎず、ごく自然に読んで大丈夫ですよ。子どもを膝の上に乗せて肌を触れ合わせることで、愛情が一層伝わっていきます。読みながら、表情の変化や反応を受け止められる余裕が持てるとういのですね。

—絵本選びのポイントは。

絵本を選ぶことは、親子の宝物を増やすための作業です。「子どもに伝えたい」「子どもと一緒に楽しみたい」と思う本を選びましょう。

実際に手に取り、絵や文を味わってみるのが大切です。できれば、小さな声で構わないので音読を試すとよいと思います。自分の心に響くものを、自信を持って選んでください。見る目はだんだん養われますよ。迷ったときは、ベストセラーよりロングセラーを。長く愛されてきた絵本は、一つの賢明な選択肢です。再版回数は巻末などにある奥付で確認できます。幅広く選ぶため、書評や書店のお薦めなどを参考にするとよいでしょう。

もよいでしょう。

絵本に対象年齢の上限はありません。少し低めの年齢向けに感じるくらいのもので選ぶのが無難です。

—絵本を子育てに生かすに当たって注意することはありますか。

お母さんのおなかの中にいるときを含め、絵本は子どもにさまざまなよい影響を及ぼすといわれています。ただし、当然、個人差があるので、過大な期待や押し付けをしないよう注意してください。

特に幼児期は、親子がコミュニケーションを深めるための道具の一つと考えましょう。

気負わずに楽しく読めば、その楽しさは子どもに必ず伝わりますよ。

肌を触れ合わせながら読むことで、愛情が一層伝わります。



土山きみ子さん

白石区在住の読書アドバイザー。自宅で「土山家庭文庫」を開き、子どもの読書を勧めている。絵本読み聞かせの会「すてっぷ」「つるばらの会」代表。

